

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903094	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社 レオパレス21		
事業所名	あずみ苑津久井浜		
所在地	(239-0843) 神奈川県横須賀市津久井1-16-57		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	○ 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくりとゆったりと生活して頂けるよう、一人ひとりの生活パターンを大切にしています。また、共同作業を通し、入居者様同士の信頼関係が築けるよう支援しています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年10月10日	評価機関 評価決定日	平成24年12月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は、京浜急行津久井浜駅から徒歩10分、三浦海岸沿いの県道から30mほど入った住宅街にある。海岸に近く裏が京浜急行の線路崖となっているが、坂道を上がると遠くに富士山が見える。法人の特色を活かし、全館バリアフリーで柱の角を落とすなど工夫がみられる。 【理念の実現】 事業所独自の理念である「ゆっくりと、ゆったりと」を実現すべく、職員は利用者のペースに合わせて支援している。そのため居室担当制にして職員は細かなことまでメモにおこしている。カンファレンスではアセスメントをしっかりと行い、計画に生かしている。 【環境を生かした工夫】 横須賀市と三浦市の境にあり、事業所連絡会も三浦市のグループホームとも協働している。また、観光地が身近にあり利用者にとってもなじみの場所でもあるので、水仙や桜・菖蒲のお花見、花火大会、みかん狩りや水族館などお出かけ行事が多彩である。海岸まで近距離なので散歩に行くことも多い。また山側は坂があり車椅子等の散歩には不向きであるが、万一のことを考え、日頃から訓練を兼ねて散歩のコースにしている。坂を登りきると遠くに富士山を望むことができるので、利用者には楽しみになっている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	あずみ苑津久井浜
ユニット名	2階 さくら

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらい
	3. 利用者の1/3くらい
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「ゆっくりとゆったりと」生活して頂けるよう、個性を大切に支援している。	法人の理念とは別に、開所時に作った事業所独自の理念がある。「人間らしい生活をする 地域住民との交流 ゆっくりと、ゆったりと」は全体会議や日頃の活動の中で確認し、支援に活かしている。理念は廊下や事務所に掲示されている。	理念の「地域住民との交流」はもっと進めたいと職員の方々も考えておられます。今後はさらに理念の実現に向けて少しずつでも交流が進められることを期待します。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会加入し、町内祭礼参加や資源ごみ回収の協力、町内散歩での地域の方とのふれあいなどを通し、交流している。	大町町内会に加入し、祭りや廃品回収に協力している。2つの中学校から体験学習の生徒を受け入れている。近隣幼稚園の運動会予行練習を見学しに行ったり、民謡やマジック、ハンドベル等のボランティアが来たり、利用者と外部との交流の機会がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	震災時、近隣の独居高齢者の安全確認を行った。近隣の認知症の方の、生活について行政や地域包括に相談し保護して頂いた。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の状況報告を行い、民生委員、ご家族より意見を頂いている。	今年は2月、4月、5月、6月、8月、9月、10月と不定期ながらすでに7回運営推進会議を開催している。民生委員や行政、利用者家族等の参加があり、事業報告や料金の改定の説明を行った。司法書士に講師を依頼し、成年後見制度などの勉強会を行った。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは必要時、空き情報交換など連絡をとり入居者に関する相談を行っている。	介護保険課の担当職員は運営推進会議や実地調査など、頻繁に来所している。市には居室の空き情報をメールで提供している。横須賀市グループホーム連絡協議会に参加し、職員交換研修やブロック会で研修を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアを実践している。	事業者の行う研修の中で身体拘束について学んでいる。玄関施錠などは開所以来行わず、言葉による拘束にも注意している。	月1回行われている全体会議で研修している。声掛けや接遇で拘束にあたりそうな時はその場で注意している。鍵は掛けずに、チャイムや鈴の音で出ていく気配を察知している。外出したい利用者には、後について同行している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加し、内部研修で知識を深めている。日常生活の中で、言葉の暴力がないよう、注意している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を有する利用者の入居があり、後見人より直接話を聞く機会があり、成年後見人制度が理解できた。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際、十分内容を理解して頂き契約している。又契約を解除する際にも、内容を十分に説明し理解して頂けるよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の意見などがあった場合は、管理者、事業者に報告し速やかに改善するよう行っている。意見箱を設置している。	本社が管理する「ご意見箱」を玄関に置いているが、意見は入らない。毎月お便りを個別に出しており、利用者家族とは面会時に意見をいただいている。これまで献立を知りたいという要望や避難の際の目安を表示したらという意見があり工夫した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、定期的にフロアー会議。全体会議を開き対応している。管理者は事業者の開催する管理者会議に出席している。	毎朝夕の申し送りの際や、月に1回の全体会議に職員の意見を聞き、利用者支援、アクティビティの工夫など業務に反映している。また「連絡帳」を置き、提案や意見を職員がいつでも書けるようにしている。管理者は話しやすい雰囲気を心掛け、職員の希望などは本部に提出している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者が適切に行っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時の事業者独自の介護基礎研修が義務づけられている。内部研修の開催や、外部研修へ積極的に参加させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地区同業者と職員研修や地域福祉活動のネットワークづくりを始めた。職員の交流と勉強に役立っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンス等でご家族も含め話し合い、本人に悩みがある際には、個別で話し合う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時の相談や、雑談の中でご家族の気持ちや思いを汲み取っている。電話でも対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が最終的に特養を希望されている場合など、情報を提供している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自己にてやって頂く、職員も一緒にやるなど「介護する人、される人」と一方的な関係にならないよう、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と話し合い、家族の立場からも出来る支援を行って頂いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活や仕事に関係してきた方達の面会や、自宅、墓参りなどの外出を家族と協力し行っている。	空き家になった家の様子を見に職員が同行したり、親戚宅で預かってもらっている郵便物を取りに行ったりしている。なじみの海岸に車で行ったり、遠くの富士山を眺めに丘の上へ散歩に行く。近所なじみの店から出前をとることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立感を与えないよう家族的な雰囲気づくりに努力している。利用者同士の認知症理解が難しいときがある。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、必要に応じて相談に応じるように心がけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から本人希望、意向等を汲み取り、かなえる方向で努力している。	初回のアセスメントは管理者やリーダーが入居前に行う。居室担当者には、細かいことでもメモに残すよう指導している。散歩や入浴などの際に個別に思いを聞くことが多い。話しにくい利用者から個室で本音を聞くこともある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報と共に、家族や本人の会話や行動から、それまでの生活習慣を把握するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者様の身体状況の変化等を全ての職員が注意しており、その状態やサインを記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティング時に問題点やケアプランの見直しなど行っている。	月に1度のフロアミーティングでカンファレンスを行っている。居室担当者や職員からのメモで本人の思いなど汲み取る。家族には来所の際や電話で意見を聞いている。訪問医からの聞き取りもカンファレンスに入れ、計画書を作っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し保存している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの為の訪問マッサージや、在宅医療の取入れを行っている。又ご家族が行えない、受診などにも対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会会合で、一人で散歩に出る方の情報を知らせ、迷った時の道案内や連絡をお願いしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携先のクリニックにより定期往診を実施している。	月に1度の内科の医師の他、精神科の往診も月に1度ある。歯科は必要な時に往診に来る。皮膚科等専門医への受診は家族対応になるが、職員が付き添うこともある。医療情報は「お便り」で看護師や家族とも共有ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>重度の方や健康状態に不安のある方は、ご家族と相談し在宅医療を取り入れている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院の際は、管理者または介護リーダーが付き添い、医師 看護師より情報を頂くようにしている。また、地域医療連携室ソーシャルワーカーと情報交換をしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルを希望された時は、ご家族、在宅医とカンファレンスを開き、家族の意見を尊重し支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に「急変時における対応について」という書類で説明し、同意を得ている。急変時には家族と医師との話し合いで看取りを行うかどうか決めることになっている。すでにご家族の希望で多くの看取りを行っている。研修についても年に1度実施している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全ての職員が応急処置の技術を身につけていないので、その時は管理者、看護師、応急処置知識のある職員に指示を仰ぐ。業務の中で初期対応の指導は行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回程度の防災訓練の実施を行っている。又消防署より、水消火器を借り、常時誰でも使えるようにしている。津波想定避難訓練や避難路の確認をしている。</p>	<p>昨年9月に津波を想定した市の訓練に参加した。1月に夜間を想定した訓練を行い、12月にも防災訓練を予定している。法人で10日分の備蓄を用意した。津波の時は指定避難場所が遠いので、独自に丘の上に行けるよう利用者と共に日頃から坂道の「散歩」をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の主張に傾聴しその方にあった対応をしている。	プライバシーや個人情報保護について法人で年に1度「コンプライアンス」の研修を行っている。日頃から声掛けやトイレのドアの開閉などに注意して、対応している。その人の生活歴を大切に声掛け等も行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が思うように出来ない方には、答えが引き出せるように話かけを行っている。又自己決定のできる方は意見を尊重し対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望（散歩、外出など）を取り入れた、日課で過ごしていただいている、業務優先ではなく利用者優先で行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自己決定して頂くが、職員がアドバイスをする事もある。髭剃りは自己、介助とも毎朝行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	在宅での雰囲気的大事に、共に準備、片付けを行っている。又、その方にあった食事形態でお出しし、希望を取り入れた座席にしている。	食材は業者が献立したものを配達してもらう。調理はそれぞれのユニットで行っている。それぞれのペースに合わせて生活しており、自室で食事をする方もいる。行事食などは利用者の意見で決めることもある。職員は同じ食事を採り、後片付けを利用者と共に行っていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事中は利用者と同席し、様子観察を行い、食事量については摂取状況表を記入している。食事形態も考え提供している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアの実施。口腔内観察を行い、自力で行えない人に関しては介助を行なっている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄表の記入などにより排泄パターンを知り、尿意の改善を促している。</p>	<p>各階に車椅子対応のトイレ1つと自立用のトイレ2つがあり、どれもバリアフリーになっている。それぞれのチェック表で確認し、声掛けを行っている。排便のコントロールも行っており、個別の対応をしている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分量の調節や乳製品を摂る様になっているが、ご家族の意向で下剤を使用する事もある。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的には、利用者様の好きな時間に入浴できるよう対応している。</p>	<p>毎日入る利用者もいるが、入浴を好まない方には声掛けのタイミングを変えたり、職員を変えたりして対応している。季節感が出るようゆず湯やしょうぶ湯などの行事湯のほか、ミカンやリンゴ等の果物を使うこともある。ススキを飾ったり、季節の話をしながらか入浴の支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者様の生活習慣に配慮し、自己のペースにあわせている。安心して終身できるよう声掛けし、就寝介助を行なっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬・服薬の確認は常に2人で確認し、誤薬の無いように対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人で楽しんでいる時は見守り、皆で楽しめる時もあり、その場の雰囲気大切にしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の理解を得て、希望する方は一人での散歩を実施している。車椅子の方も、職員と散歩やドライブを楽しんでいる。	地理的に恵まれた環境にあり、三浦の花火大会やミカン狩り、菖蒲園など近場に出かけている。時にはレンタカーで城ヶ島や三崎に行くこともある。坂もあるがリハビリを兼ねて散歩に行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は買い物や理容代など自己にて支払いしていただくようにしている。又、買い物に行かれない方は預かり金利用されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話が使える方は、ご本人の希望により支援をしている。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るように心がけている。各自作成の作品やレクの写真を飾っている。	全館バリアフリーで柱の角を丸くするなど安全に配慮している。コスモスなど季節の花が飾られ季節感を出す工夫をしている。飾り物も家庭的な温かみが出るよう職員の手作り品が多い。ベランダには日よけの緑のカーテンを作っている。		1階玄関近くで入館時に少し尿臭がしました。来客時等に多少気づく程度かもしれませんが、印象が違うので改善を期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを楽しめる場所と休める場所を分けている。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、以前自宅で使用していた物を持ってきて頂き、利用者様が居心地良く過ごせるような空間作りを提案している。	居室前には職員が描いたトールペイントによるそれぞれの表札が掲げられている。居室にはタンスやテレビ、椅子、テーブルが持ち込まれている。掃除がきれいに行き届いていた。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行が出来る方は階段を使用して頂く。玄関にはベンチを置き靴を自己にて脱ぎ着して頂くなど工夫している。			

事業所名	あずみ苑津久井浜
ユニット名	1階 れんげ

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「ゆっくりとゆったりと」生活して頂けるよう、個性を大切に支援している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会加入し、町内祭礼参加や資源ごみ回収の協力、町内散歩での地域の方とのふれあいなどを通し、交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高齢者にも気軽に声をかけていただるよう、挨拶など此方から声をかけるよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の状況報告を行っており、民生委員、ご家族より意見を頂いている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは必要時、空き情報交換など連絡をとり入居者に関する相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>事業者の行う研修の中にも身体拘束について学ぶ。玄関施錠などは開所以来行わず、言葉による拘束にも注意している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修等に参加をし、内部研修で知識を深めている、日常生活の中で、言葉の暴力が無い様、注意している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の成年後見人をされている方に講師をお願いし、研修会を実施。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を行う際にも十分内容を理解して頂き契約している又契約を解除する際にも、内容を十分に説明し理解して頂ける様努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等の意見を反映できるよう受付に記入用紙と意見箱を設置している。面会時など気軽に話しが出来る雰囲気作りを心がけて居る。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロアー会議や全体会議をあまり開催出来ていないが、管理者も介護業務菜はある機会が多く意見聞いたりや考えを共有でている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者が適切に行っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	入職時の事業者独自の介護基礎研修が義務付けられている。内部研修の開催や、外部研修への積極的な参加をさせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地区同業者と職員合同研修を開催し職員の交流と勉強に役立っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンス等で話し合い、本人に悩みがある際には、個別で話し合う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時で相談や雑談の中で御家族の気持ちを汲み取っている。又電話でも対応をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が最終的に特養を希望されている場合など、情報を提供している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自己にてやって頂く、職員も一緒にやるなど「介護する人、される人」と一方的な関係にならないよう、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と話し合い、家族の立場からも出来る支援を行って頂いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	これまでの生活や仕事に関係してきた方達の面会や、自宅、墓参りなどの外出を家族と協力し行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立感を与えないよう家族的な雰囲気づくりと共同作業を通しお互いが理解しあえる場を設けている。利用者同士の認知症理解が難しいときがある。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、必要に応じて相談に応じるように心がけている。手紙での交流を図っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から本人希望、意向等を汲み取りかなえる方向で努力している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報と共に、家族や本人の会話や行動から、それまでの生活習慣を把握するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者様の身体状況の変化等を全ての職員が注意しており、その状態やサインを記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>フロアーミーティング時に問題点やケアプランの見直しなど行っている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を記録し保存している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>リハビリの為に訪問マッサージや、在宅医療の取入れを行っている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>町内会会合で、一人で散歩に出る方の情報を知らせ、迷った時の道案内や連絡をお願いしている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>提携先のクリニックにより定期往診を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>重度の方や健康状態に不安のある方は、ご家族と相談し在宅医療を取り入れている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院の際は、職員が付き添い、医師看護師と情報を伝え居る。地域医療連携室ソーシャルワーカーと情報交換をしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルを希望された時は、ご家族、在宅医とカンファレンスを開き、家族の意見を尊重し支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員のスキルにあった対応ができるよう日常業務の中で、指導している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回程度の防災訓練の実施を行っている。又消防署より、水消火器をかり、常時誰でも使えるようにしている。津波想定での避難訓練や避難路の確認。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の主張に傾聴し対応している。個人情報管理なども法人から研修を受けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が思うように出来ない方には、答えが引き出せるように話かけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合った事柄を提供する事はありますが、理念の「ゆっくりとゆったりと」マイペースで過ごしていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自己決定して頂くが、職員がアドバイスをする事もある。髭剃りは自己、介助とも毎朝行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	在宅での雰囲気的大事に、共に準備、片付けを行っている。希望を取り入れた座席にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事中は利用者と同席し、様子観察を行い、食事量については摂取状況表を記入している。食事形態も考え提供している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアの実施。口腔内観察を行い、自力で行えない人に関しては介助を行なっている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄表の記入などにより排泄パターンを知り、トイレ誘導を行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分量の調節や軽い運動を取り入れている。ご家族や医師の意向で下剤を使用する事もある。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的には、利用者様の好きな時間に入浴できるよう対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の利用者様の生活習慣に配慮し、自己のペースにあわせている。就寝介助を行なっている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>配薬・服薬の確認は常に2～3人で確認し、誤薬の無いように対応している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人で楽しんでいる時は見守り、皆で楽しめる時もあり、その場の雰囲気大切にしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>御家族との個人的な外出は多い。日常は散歩が中心になっている。車椅子の方も、散歩やドライブなど行っている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理が出来る方は買い物や理容代など自己にて支払いしていただくようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたりかかって着た時の取り次ぎなど、ご本人の希望にそう支援をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るように心がけている。片付け過ぎず散らかり過ぎず、出来るだけ生活観が出るように心がけている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーのテレビの前や玄関ホールに椅子を置きには常に利用者様が休めるように配慮している。入居時、個室にも椅子の持ち込みをお願いしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、以前自宅ど使用していた物を持ってきて頂き、利用者様が居心地よく過ごせる様な空間作りを提案している。その趣旨に協力頂けない時もある。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行が出来る方は階段を使用頂く、玄関にはベンチを置き靴を自己にて脱ぎ着して頂くなど工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 あすなろ養護老人ホーム

作成日 平成25年3月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	車椅子の方の外出頻度、家族参加の行事が少なかった。 家族参加の外出しが行われていた。	車椅子の方、家族参加のレクもふせ。行事により多くの家族に参加していただく。	車椅子で利用できる施設や計画を立てる。余裕をもった計画を立て、家族に参加していただけるようにする。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。